

南ALPS・仙丈ヶ岳

年末に挑んだ仙丈ヶ岳（3033m＝昔は仙丈岳、いつごろからか不明だが、何処かで変わった）は、冬数回上っているが、冬山初心者には上り易い山。また、北沢峠の小屋が営業してくれるのは心強い存在。私が初めて上った冬山でもある。過去の記録を調べた。

1. 1968. 12. 30～1. 5＝甲斐駒（摩利支天・独標ルート・水晶沢）、仙丈ヶ岳
2. 1970. 12. 30～1. 1＝仙丈ヶ岳（単独）
3. 1975. 12. 28～1. 1＝仙丈ヶ岳～塩見岳（いわゆる仙塩尾根・2名）
4. 1979. 12. 30～1. 1＝仙丈ヶ岳・地蔵尾根～甲斐駒・黒戸尾根（2名）
5. 1998. 12. 29～12. 31＝仙丈ヶ岳・甲斐駒（6名）
6. 2011. 01. 02～1. 04＝甲斐駒・仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・仙丈は未登
7. 2014. 12. 27～12. 29＝仙丈ヶ岳・地蔵尾根（4名）
8. 2016. 12. 29～12. 30＝仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・未登

記録は以上だった。51年の登山人生で8回挑んだ。上れなかったのは2回。テント泊で行ったのは、1998年が最後だった。（2014年、地蔵尾根は無人大小屋内でテント泊）NO. 1は、初めての冬ALPSが、甲斐駒摩利支天壁・独標ルートと水晶沢だった。摩利支天の帰幕は22時の厳しい山だった。水晶沢は専門のバイル・12本アイゼンがない時代の登攀だった。

NO. 2は、単独。当時は、前夜発で中央線・伊那北駅まで行き、翌朝JRバスで戸台に入った。現在は、冬バスは運行なし。寒い朝、伊那北駅で国鉄職員が出してくれた「熱いお茶」が忘れられない。若かったが、北沢まで4時間だった。

NO. 3は今でも厳しい縦走。それほどトレースされていない。仙丈頂上から二人で縦走に向かうが「悲壮感」はなかった。嵐の三峰岳の上りは厳しかった。三伏峠下りでM労山に会い、労山入会のキッカケとなった。鹿塩まで長い下り。バスまで2Hあった。バス停が丁度酒屋で、初対面の初宴会で盛り上がった。

NO. 4は、地蔵尾根～北沢峠～甲斐駒～黒戸尾根。飯豊連峰で遭難死したM労山M氏と二人だった。地蔵尾根は猛烈な嵐の中、登頂し北沢に降りた。GPSもない時代によく歩いた。北沢にいる



ハズのピークハント隊と合流できず、二人で淋しい大晦日だった。

NO. 5は、麗峰6名の在所帯でテント泊。最高齢は65歳のS氏。荷物は21kg。戸台発7:15～北沢着12:45は速かった。

私は49歳。全員、甲斐駒・仙丈に上ったのは立派。

NO. 6は、強風で甲斐駒のみ。